

仏教入門

基礎講座

(9)

仏陀は「世界の在り様をいじりなす」ことを願われた。そして、その正見によって一切の存在と事象は、変化して止むことのない無常なるものであり、確たる自性を有しない無我なるものであると明示された。

「無常」である無我であるが故に、すべての現象は苦であるのである。一切「一切皆苦」を説かれた。この一切皆苦が仏教の第三の法印といわれるものである。

精神的主観的苦楽

先の二つの法印(諸行無常、諸法無我)は、極めて論理明快であるから、仏教を信じた人々、心定まれば止むべき法理である。と容易に認められるであろう。

この「一切皆苦」という法理にはすなわち「なすべし」の法がある。と考へられる。

「なすべし」の法は、人生においては苦ばかりではなく、苦もあれば楽もあり、苦も楽もいえない状態があるからである。

基礎講座

人はその状況を幸福と感じ、あるいは不幸と感じているのが美態なのである。その美態から物理的にはけりして恵まれず、他人から見ればはじめではないかと思われような生活であっても、その人が心から満足して人生を楽しんでいる場合も少なくないのである。

また、不治の病におかされた、再起のみなめ病床にありながら、人生を真剣に考え「人として生きる」といふことの意味

寂靜涅槃指向する「一切皆苦」

苦苦・壊苦・行苦の三種

を正しく知って一日一日を感謝しつゝの心で過す人もいるのである。

この「なすべし」から、我々のこの世界はけりして苦のみならず、善な世界と断定されるものではなく、苦楽は人の心によって異なるきわめて精神的主観的なものである。したがって、仏陀が説かれた一切皆苦という法理は、そのまま「なすべし」を受けとる難いものとなる。

苦の本質にせまらる

さて、仏陀がいわれる苦とは、いったい何をさすものであるかを考えなければならぬ。

仏教において苦といふのは、およそ三種に分けて理解される。

とは異り、人間個々の主観によるものである。他の生物にはあまり見られないものであるが、おおよそ我々が苦といふものの美態は、この壊苦を伴っている場合が多い。

それは先に述べたように、同じ状況下にあっても、人によって苦楽の思いが違つてくる。病氣なども確かに苦痛であるが、それにも増して苦しむのは、病によって経済的・家庭的な悩みが生ずるなどであり、また、己れの将来に不安をいだくことである。老死もまた同様である。

苦と解脱の境地

このように壊苦は精神的なものであつて主観によるものであるから、主観の転換によってその苦は解消されるものである。己れの怒りとして苦しむことは、己れの怒りとして苦しむことである。

このように壊苦は精神的なものであつて主観によるものであるから、主観の転換によってその苦は解消されるものである。己れの怒りとして苦しむことは、己れの怒りとして苦しむことである。

世界そのものであるから、この世界そのものを苦と断定してはならない。これは先ほども述べた通りである。おおよそ我々が苦といふものの美態は、この壊苦を伴っている場合が多い。



化儀講座

我々の生命には「感応の妙」といふものがあります。これは、我々の心は接する環境や相手に染められるという法則です。たとえ尊敬する相手があれば、自分の心や言動はその人に染められ、よく似てきます。これは生命対生命が融合して同一化する他なりません。

「感応の妙」を配慮
△祭祀への奉仕活動について
これも寄附と同様、お断りすべし。その「祭祀」があなたも地域祭りのような性質であるから、

祭祀

祭祀への参加
祭祀への参加はしてはなりません。見物なものであれ、ご自分も思つてお楽しみください。終には法法となつてゆく場合がほごです。

正信のすすめ

創価学会の何が
まちがっているのか

本書は第一部「創価学会の謗法の真実」第一部「正しい信心のあり方」の二部構成で、学会がなぜ本尊模刻を行ない、「広宣流布」の名のもと、会員を財務に、選挙活動に駆り立てるのか、などの問題に言及。さらに正信覚醒運動の目的、日蓮正宗本来の修行のあり方にも触れた。ぜひ学会員に読んでほしい一書である。

●A5判32頁、定価100円、お申込みはお近くの正信会寺院。本書の内容等についてのお問合せは、03(5234)4101 継命新聞社編集部へ。

化儀講座 94 祭祀の今

△具体的対応
「祭祀」の具体的な対応の仕方について述べてみます。

△「歌うだけ」「踊るだけ」
「歌うだけ」「踊るだけ」といふ人もありますが、その行為は祭祀を尊ぶ称え、喜ばせていることに変わりはないのです。法法以外のものでもあり、また法法に近づく

△「感応の妙」を配慮
我々の生命には「感応の妙」といふものがあります。これは、我々の心は接する環境や相手に染められるという法則です。たとえ尊敬する相手があれば、自分の心や言動はその人に染められ、よく似てきます。これは生命対生命が融合して同一化する他なりません。

△祭祀への奉仕活動について
これも寄附と同様、お断りすべし。その「祭祀」があなたも地域祭りのような性質であるから、